

2021年3月18日

翻訳：2021年4月18日

人工妊娠中絶に関する FIGO（国際産婦人科連合）の声明

FIGO は遠隔医療による人工妊娠中絶の恒久的な導入を支持します

本翻訳について

これは、リプロダクティブライツを考えるチーム（産婦人科医を含む）が FIGO（国際産婦人科連合）の声明文 “FIGO endorses the permanent adoption of telemedicine abortion services” を有志で翻訳したものです。

原文は、<https://www.figo.org/FIGO-endorses-telemedicine-abortion-services> をご確認ください。英語版と日本語版の間に矛盾がある場合は、英語版の原文が真正で拘束力があります。原文および参考文献は QR コードからご参照ください。



COVID-19 のパンデミックは、一部の国で人工妊娠中絶が一時的に制限されたこともあり、世界中の女性と少女に不均衡な影響を与えています。一方、コロナ禍に医療・ケアサービスへテクノロジーが急速に導入されたことで、特に人工妊娠中絶の提供が行き届いていないコミュニティの人々に効果的かつ効率的な医療を提供する可能性が広がりました。遠隔医療による人工妊娠中絶は、女性や少女が自宅で、ヘルスケアプロバイダー（医療従事者）にオンラインで相談したり、薬を患者に届けたり回収したりすることで、自己管理ができるようになる可能性を秘めた分野の一つです。

人工妊娠中絶に関する FIGO の見解

FIGO は、安全な人工妊娠中絶へのアクセスを含むリプロダクティブ・オートノミー（性や生殖に関する自己決定権）は、基本的な人権であり、どのような状況でも侵害されるべきではないものだと考えます。人工妊娠中絶は一刻を争う重要な医療サービスであり、女性や女子の希望に沿って、安全性、プライバシー、尊厳を最優先にして提供されるべきものです。FIGO はすべての政府に対し、安全な人工妊娠中絶へのアクセスを妨げる障壁を取り除き、COVID-19 の流行期間中もその後も、すべての女子と女性が安全な人工妊娠中絶を利用できるようにすることを求めます。

今回のパンデミックの間に実施された遠隔医療による人工妊娠中絶は、超音波検査を行わなくても、有効性、安全性、効率性、受容性の高いサービスを提供できることを実証しました。イングランドとウェールズでの例では、すべての女性と女子のアクセスを改善し、ケアに対する障壁を減らしました^[1]。また、オーストラリアでも 2015 年から遠隔医療による人工妊娠中絶が実施されており、遠隔医療により直接患者に届く薬剤による人工妊娠中絶は、効果的で安全、安価で満足できるものであることが証明されました^[2]。

安全性とプライバシー

遠隔医療は、クリニックを訪れることなく妊娠初期の人工妊娠中絶を行うことができる、安全でプライバシーの守られる方法です。遠隔地に住む女性や女子が、スティグマにさらされることを減らし、人工妊娠中絶を受ける機会を増やすことができます。安全で効果的な人工妊娠中絶を提供するためには、直接会って話をすることが必須ではありません。実際、世界保健機関（WHO）は、女性が適切な情報にアクセスでき、中絶プロセスのどの段階においても必要または希望する場合には医療サービスを受けることができる状況であれば、女性は安全に薬による中絶を自己管理することができる^[3]と述べています。

FIGO は、遠隔医療を、女性や女子が安全で偏見のない人工妊娠中絶をいつでも受けられるようにするための効果的なツールとして認識しています。コロナ禍に、一時的な措置として中絶のための遠隔医療が導入されたイングランドとウェールズの最近のデータは、女性が人工妊娠中絶をうまく自己管理できることを示しています。実際に、重大な有害事象は極めて稀でした^[4]。遠隔医療と自己管理による人工妊娠中絶の実施に関するさらなる証拠は医療専門職間のタスク・シェアリングの利点をも強調しており、あらゆる状況下ですでに過密状態にある公衆衛生システムの負担を軽減しています^[1]。

遠隔診療の導入により、人工妊娠中絶が妊娠週数の早い段階で行われることで、患者安全が向上する可能性があります^[1,5]。異所性妊娠の可能性を除外するためのルーチンの超音波検査が必要であるというエビデンスはありません^[5]。また、適切なスタッフであれば、対面診察を必須とせず、臨床的なリスクや安全面のリスクを認識することができます。WHO は以前から遠隔医療による人工妊娠中絶を推奨しており、人工妊娠中絶を行う際に超音波検査をルーチンに行う必要はないとしています^[6]。さらに英国では、国立医療技術評価機構（NICE）の推奨は、子宮内妊娠の決定的な超音波検査の証拠がある前に人工妊娠中絶を行うことができるとしています^[5]。女性や女子は、すでに様々な理由から人工妊娠中絶薬をオンラインで入手しようとしています^[7]が、必ずしも安全で質の高い薬が手に入るとは限りません^[7]。正規の販売会社による質の保証された薬が使われるべきです。

アクセス性の向上

遠隔医療は、交通手段、仕事や育児介護の責任、障害、クリニックへの通院にかかる費用など、多くの障壁を取り除くことで、医療へのアクセスを全面的に改善します。薬による人工妊娠中絶を希望する女性や女子にとって、遠隔医療はプライバシーに関わる障壁を取り除き、かつ治療を受けるための待ち時間が全体的に短縮されるため、アクセスが改善される可能性があります^[1]。調査によると、遠隔医療による人工妊娠中絶は、物理的または心理的にクリニックでの診察が困難な人々に特に受け入れやすいものです^[8]。

女性と女子の経験にポジティブな影響を与える

遠隔医療モデルは、性と生殖に関する医療の提供を改善しようとしている多くの国で、すでに指針として用いられています。人工妊娠中絶を求める女性と女子、そして医療従事者とシステムに明らかな影響を与えていることから、このモデルは多くの環境、特に資源の制限に直面している環境にとって望ましいものです。

人工妊娠中絶を含む多くのリプロダクティブ・ヘルス・サービスにおいて、遠隔医療は規制されていないヘルスケアの方法への依存を軽減してきました^[9]。超音波検査を行わず、自宅で薬剤を服用する遠隔医療による人工妊娠中絶は、女性と女子に、自分にとって適切な人工妊娠中絶の選択肢をより多く提供します。さらに、人工妊娠中絶前の超音波検査の必要性がなくなることで、薬剤による人工妊娠中絶を提供できる医療機関の範囲が広がり、女性や女子が安全でプライバシーが守られた尊厳ある医療を受けられる可能性がさらに高まります。

世界中で、望まない妊娠をした女性や女子が、違法で安全でない人工妊娠中絶を行うことで、日々、非常に危険な状態に置かれています。女性と女子は常に安全な人工妊娠中絶を受ける必要があります。遠隔医療は、安全で思いやりがあり、費用対効果の高い解決策を提供します。

FIGO の推奨と任務

FIGO は、世界中の政府が遠隔医療の提供とアクセスを強化するための投資を行うことを推奨します。これにより、中絶を求める女性を含め、世界中の女性と女子に安全かつタイムリーで効果的なケアを提供することができます。

本翻訳について

これは、リプロダクティブライツを考えるチーム（産婦人科医を含む）が FIGO（国際産婦人科連合）の声明文 “FIGO endorses the permanent adoption of telemedicine abortion services” を有志で翻訳したものです。

原文は、<https://www.figo.org/FIGO-endorses-telemedicine-abortion-services> をご確認ください。英語版と日本語版の間に矛盾がある場合は、英語版の原文が真正で拘束力があります。原文および参考文献は QR コードからご参照ください。



※ 日本では、遠隔医療による人工妊娠中絶（薬剤による人工妊娠中絶）は認められていません。

※ 本翻訳において Abortion は、文脈中の意味から人工妊娠中絶と翻訳しました。Abortion とは、人工妊娠中絶と流産の総称です。

※ 本翻訳の利用に関しては、必ず原文をご確認いただいた上、個人の責任でお使いください。